

復活日

2026年 4月 5日

風のように

甘木教会



© Can Stock Photo - csp20734417

主任牧師：崔大凡

教会委嘱牧師：竹田孝一

天使たちが、「婦人よ、なぜ泣いているのか」と言うと、マリアは言った。「わたしの主が取り去られました。どこに置かれているのか、わたしには分かりません。」こう言いながら後ろを振り向くと、イエスの立っておられるのが見えた。しかし、それがイエスだとは分からなかった。イエスは言われた。「婦人よ、なぜ泣いているのか。だれを捜しているのか。」マリアは、園丁だと思って言った。「あなたがあの方を運び去ったのでしたら、どこに置いたのか教えてください。わたしが、あの方を引き取ります。」イエスが、「マリア」と言われると、彼女は振り向いて、ヘブライ語で、「ラボニ」と言った。「先生」という意味である。イエスは言われた。「わたしにすぎりつくのはよしなさい。まだ父のもとへ上っていないのだから。

わたしの兄弟たちのところへ行って、こう言いなさい。『わたしの父であり、あなたがたの父である方、また、わたしの神であり、あなたがたの神である方のところへわたしは上る』と。」マグダラのマリアは弟子たちのところへ行って、「わたしは主を見ました」と告げ、また、主から言われたことを伝えた。

ヨハネによる福音書20：13－18

【説教要旨】

2020年の復活日の説教は、「私たちは、これまでとまったく違った復活祭を迎えます。私たちは復活祭の卵も作りませんし、卵探しも出来ませんし、何よりも共に礼拝に集うことができません。・・・コロナウィルスの感染拡大で、国は緊急事態宣言を出して、拡大防止を始めました。」始まりました。あれから5年です。すべての命が墓に閉じ込められ、重い石で命が塞がれていました。それから、5年がたちました。

神はこの世の力、コロナウィルスに殺されたのです。復活の朝の女性らが見たのはこの世の力によって十字架にかかり殺されたイエスの死の墓でした。神は死んだのです。

「神の内に隠されている」という聖書の言葉に注目したいのです。イエス・キリストの十字架の苦難と死は、理性的な目には、イエスの弱さと敗北です。誰が見ても、私たちの復活祭の礼拝の休止は、私たちの弱さであり、敗北です。しかし、この見方は、私たちがこの婦人らのように死んだ主の体なる教会を理性的には見て悲しんでいるのと同じです。理性が教えるのは死の墓。しかし、「上にあるものに心を留め、地上のものに心を引かれないようにしなさい。」と語りかけてくださる。何に心留めるのですか。「イエスは言われた。『婦人よ、なぜ泣いているのか。だれを捜しているのか。』」と。

あのときも、主は私たちに語りかけていてくださっていました。神の内に隠された真実がありました。

「あなたがたは死んだのであって、あなたがたの命は、キリストと共に神の内に隠されているのです。」。私たちも死んだ。同時に私たちの命は、死の中におられたキリストとともに神の内に隠されています。この苦難と死の中で、死から勝利されたキリストは共にいてくださり、失望と苦しみと死しか見ない私たちの前に立ってくださって、「婦人よ、なぜ泣いているのか。だれを捜しているのか。」と語りかけてくださいます。

私たちがここで心留めるのは、この声であり、この声こそ上にあるものに心を留めることです。イエス・キリスト、それも十字架におかかりになったイエス・キリストに心をとめるのです。十字架の苦難と死は、神を信じきれなくなっている罪人に神の何物をも求めない愛と憐みがあるのです。神の愛と憐みが貫かれています。そして、今日があるのです。

約50年ぶりに九州教区総会に出ました。隔世の感がありました。私たち青年の時代の方々が老いて教会の代表として来られているのです。ある若い牧師が「いつたっても教区で一番、若いのです」と言われました。息子に彼の年齢を聞くと30、31歳と

教えてくれました。私は九州教区総会の24歳でした。老いた。議事進行に少し滞りました。私の時なら議場から御怒りが飛んできましたが、今はジェントルマンです。この大変化の時代にこれで良いのかとひたすら、無力を感じたのは私だけでしょうか。イエスが、「マリア」と言われると、彼女は振り向いて、ヘブライ語で、「ラボニ」と言った。「先生」という意味である。

絶望にある、神を見失った、命を亡くした者に新しい命は近づき呼びかけてくださる。「マリヤ」と。私たちにも。

誰が見ても絶望と命の終わりしか見えないとき、神と私が断絶しているとき、ここから新しいことが起きる。必ず私たち呼びかけてくださる。一人一人の名を呼んでくださる。

今、改めて何が現代人にとって福音を伝えていくかという課題かということが、改めて問われている。次の時代の始まり現代、やるべきことをやったら終わっていくということ次の時代がいよいよ始まるという目。「わたしは主を見ました」、見ました目を私たちは与えられています。すべてが終わりになるとき、この終わりをともに荷って、新しい命へと導いてくださる主が共におられることを信じていた者の言葉であり、目です。はっきり死から勝利したもう主を見たものだけにゆるされる言葉、目です。それは復活を信じる私たちにも与えられたことです。

新しい命を生きる私たちはこの世の命を超えたところで、この世の重荷を自分の重荷として力強く担えるのが私たちの群れ、教会です。無力ではありません。不毛な悲観主義、敗北主義は、教会の姿ではではない。次のことについて準備しなくてはいけない。今、現代社会に何を問われているか。復活にあつての目覚めです。

打ちひしがれたこの婦人たちが、なおも十字架の苦難と死を受けたイエスに寄りすがり墓に向かったところにキリストと共に神の内に隠されている命、神の愛と憐みがあはつきりと見えてきます。さあ、墓から離れて走って、「わたしは主を見ました」と私たちは、キリストに目にしっかりと留め、喜びを希望の中を生きています。この時だからこそ、真実の命を、喜びを希望を得た者として、喜びを、希望を伝えていきましょう。

今日、松崎保育園の職員の就任式です。私も、みなさんも子どもに信じられるような力はありません。しかし、みなさんは、神さまに愛されています。みなさんが、子どもたちと共に生きようとするとき、色々な課題が起きてきます。しかし、新しい命は近づき呼びかけてくださる。「マリヤ」と。私たちにも。

わたしたちは、キリストを見たことがないのにキリストは愛し、今見なくても、きっと、「わたしは主を見ました」という事実が起きて、言葉では言い尽くせないすばらしい喜びに満ちあふれた一人一人にしてくださいませ。こどもらとともに、しゅイエスとともに歩いていきましょう。

牧師室の小窓からのぞいてみると

イランへのアメリカ、イスラエルの攻撃は、聖書的かというより、主・イエスの御心かと言うと、肯定できるものではない。今、ユダヤ教を起源とするキリスト教、イスラム教は根本的に問われている。



「剣をさやに納めなさい。剣を取る者は皆、剣で滅びる」というイエスの言葉を心に刻みたい。

園長・瞑想？迷走記

新学期が始まる。日善幼稚園と松崎保育園ともに今日の礼拝において、職員就任式である。幼稚園、保育園での一人一人の働きがいつも神と共にある働きであることの神の御手の見える祝福の時である。人間を超えた神の愛が一人一人の上にこの一年間そそぐのである。

今年のキリスト教保育連盟の年主題は「しゅイエスとともに」である。去年の「ともに」に加えて「しゅイエス」が来ている。この不安定な世界だから具体的に誰と共に歩むかと言うことかもしれない。多くの教育・保育理念、理論がある。その中で私たちが立つのはどこかにあるかということである。「寄り添う」という言葉がある。では、だれが寄り添うか。主イエスであるということとともに心むける日々でありたい。

毎日の糧

聖書：家を建てる者の退けた石が、隅の親石となった。主よ、わたしはあなたに感謝をささげる、



詩編 118:22

ルターの言葉から



私たちが頼るべきは、ただ主のみです。主は私たちの力であり、私たちのうちにすべてをなしてくださいます。それゆえ、主を讚美し、主に感謝し、それによって、主のみが、わが歌となるようにしましょう。

詩篇 118 篇の注解

『マルティン・ルター日々のみことば』鍋谷堯爾編訳 いのちのことば社

隅の親石

この詩篇は救われた信仰者が感謝の詩となって、詠ったと思う。それが、神殿で朗読され今日にいたっている。そして後に『『隅のかしら石』(22)および『ヤハウエのみ名によって来る』(26)が、25節『お救い下さい』(ホシアンナー＝ホサナ)ともども、イエスのエルサレム入場を語る福音書に取り込まれ(マタイ21:9, 42及びその並行箇所)。それは、本詩成立後、この作品がいつしかメシア待望のもとで詠われるようになったことを示す」①

「家を建てる者の退けた石が、隅の親石となった。」とある「隅の親石」とは、「建物の壁の基礎を組む場合、四隅にあたる部分に据える硬くて大きな要石をさす」②

この詩篇で特徴なのは、四隅にあたる部分に据える硬くて大きな要石が、家を建てる者の退けた石であったということである。「イスラエルの民は、こうした『不思議な』体験を通して絶望を希望に変えてくれる神、人間には不可能とみえることを可能にしてくれる神への信仰を深めたのである。本詩の『隅のかしら石』にはそうした信仰がこめられている。」③そして新約聖書において、「家を建てる者の退けた石が、隅の親石となった。」とは十字架に架けられ捨てられ、退けた石イエス、復活において隅の親石となったイエス・キリストである。私たちが頼るべきは、ただ主のみです。

①②③詩編の思想と信仰V 月本照男 新教出版

祈り:主のみが、わが歌となるようにしてください。アーメン。

甘木通信

人はきたときと同じように去って行くしかない。人には何の益があるのか。それは風を追って労苦するようなものである。 コヘレト5：14～15



松崎保育園に駅から保育園へ行く道の途中にある神社が目にとまる。というのは、私の旧約聖書の先生であったネービー夫妻がこの神社から松崎保育園を起こしたのである。時代も良かったのだろうが、ネービー先生は、伝道意欲が実を結んで多くの教会を創立し、ネービー・キングダムと呼ばれた。

この伝道の時代にネービー先生は、「風」、ヘブライ語で、「ルーアハ」、ギリシャ語、「プネウマ」の研究をして、当時、最高の神学の学府、ユニオン神学校から博士号いただいた。よく、私に先生は、鶏の世話をしながらヘブライ語を一からやり直して、「ルーアハ」について勉強をしたと冗談を言われていた。引退されてパプアニューギニア、南アフリカの神学校で働かれた。2015年、91歳で天に帰られた。いつか松崎保育園をネービー夫妻が創立したなどは記憶の中から消えていくだろう。「ネービー・キングダム」という教会の幾つかは今はない。最後に関わった教会は帯広ルーテル教会だったと思う。それも確かではありませんが。まさにそれは風を追って労苦するようなものであります。コヘレトは「すべては空であり、風を追うようなことであつた。」とも言っています。風を追う、それは風を抱く、空しいことです。それで良いのです。創世記で、神が人に息（ルーアハ）を吹き込み、命を与えたように、また神は息を吹き込められ新しい世界を創られると希望をもっている。

(甘木日記)土) 快晴。家内はイースターの準備。私は、幼稚園の準備で、久留米の日善幼稚園へ。甘木へは夕になる。日) 礼拝後、役員会。2年間主管牧師と働いて下さった白川牧師が代る。感謝してプレゼントを贈る。月) 早朝に幼稚園へ。夜は聖週間の礼拝を行う。火) 幼稚園へ。夜は聖週間火曜日の礼拝。水) 雨で寒い。聖週間水曜日の礼拝。木) 聖週木曜日礼拝。羽村幼稚園の zoom 会議。金) 日善幼稚園で仕事。夜は甘木教会で聖週金曜日の礼拝。午後から断食に入る。よくここまで来られた。

おまけ・牧師のぐち（続日記）牧師だって神さまの前でぐちります。
はぐちらない聖人（牧師）もいますが。

土）快晴。どこかに出かけたいが、家内はイースターの準備。私は教会、幼稚園の事務処理のために幼稚園に行く。と久留米教会の夕刻よりのコンサートのためにhさんが来て準備されている。春の花壇の前で花に慰められてよもやま話。こんなことが幸せなのかもしれない。一方、この頃、時代の変化の中でますます荷が負えなく感じられる。そろそろ、荷を降ろしたくなる。甘木へは夕になる。日）いつものように早朝の庭の掃除。いつものようにはと幸せだと思う。午後からいつものようにいかなかった。今期から主任牧師が変わり、最後の現任の白川牧師の役員会となる。感謝を込めて、お礼の言葉と品を送る。最後は久留米の家まで送ってくださる。老いるとは小さな変化も大変に不安にさせられる。どっと疲れていたのでもマッサージに行く。前任の教会のFさんから教会の庭の桜の開花の写真をいた



だく。また私の病気を気遣う電話があったり、病気で入院さ（記念の切り絵）
れているご家族に電話をする。早く布団の中に。月）先生も少なく、早朝から園に出勤。園児も少なく、ゆっくりと保育の時間が過ぎていく。発達Mさんが最後の登園。4月から小学校。帰る時、雨の涙が降る。楽しいことばかりを残してくれた。迎えに来られたお母さんへ感謝の言葉をかける。前任の教会の在任中、祈り支えて下さったIさんから私の病気を気遣う電話がある。有難し。夕刻、聖週間の礼拝に甘木教会へ向かう。往復100分、1000円かかり、礼拝は30分。効率は悪いが、礼拝を止めるか。そうは思わない。たとえ0であっても0を超えるのは聖週間の礼拝だと思う。明日は小学校に行く、最後の登園。なんと声をかけようか。火）Rちゃん、Yちゃん、E君が最後の幼稚園、明日から小学生。夜に甘木に。帰りに車で送ってくださり夜の桜を見ることが出来た。水）今日は肌寒い雨の日。幼稚園も新学期の始まり。新しい先生方が出勤、打ち合わせ。松崎保育園はもう子どもたちが来て、始幼稚園式。電話で園長におめでとうの言葉を伝える。今日は聖水曜日の礼拝。息子の牧師も聖週間の礼拝をしている。「誰も来ませんよ」と信徒さんに言われたが「来るかどうかは関係ない。聖週間の礼拝が与えられている」ということだと。その通りだと思う。木）イエスの洗足の切り絵を作り、聖週木曜日礼拝出席者に渡す。桜に負けずと近所のつつじが満開。礼拝の帰りに甘木まで送っていただき大変に助かる。多くの人に支えられ老牧師は生きられる。金）朝から新任の先生を加えて研修と新学期の準備をする。今週も多くの人に助けられてここまで来た。

